

Title	リース改訂世界史
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.1 (1920. 1) ,p.140- 141
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200101-0140

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

居るよりも、以上の自由を享有せざることを論述したるが如き、何れも氏の保守的意見を代表したるものなり。然も全編を通じて氏の鋭利なる観察と明快なる論斷とは隨所に之を窺うを得べく、多くの點に於て、氏の處女作「ミーモング、オヴ、マニー」と併び稱せらる可き快著なることを認む。

(堀江歸一)

リース改訂世界史

Georg Weber's Weltgeschichte. vollständig neu bearbeitet von Ludwig Riess. Verlag von Wilhelm Engelmann, Leipzig, 1918.

十九世紀に於ける最も偉大なる歴史家たる「レオポルト、フォン、ランゲ」によりて世界史が眞の意義及内容を見出してより今日に至る迄獨逸の學界に於て公にせられし世界史には自から二個の編纂方法あり、即ち其一是「ヘルモルト」

及「ウルスタイン」の世界史の吾人に示すが如く歴史の各時期又は各部門がそれごとく各専門家によりて分擔せらるゝ場合と、更に第二は前者と異なりて其歴史が全然單獨なる歴史家の手によりてなざるゝ場合なりとす、即ち「ランゲ」の世界史の如き或は吾人が茲に紹介せんとする上下二卷の「ウエバー」世界史の如きは後者に屬するものなりとす。

等しく「ウエバー」の世界史と稱するも、其中には最近、専ら「バルダムス」教授によりて改訂せられし全部四卷(古代、中世、近世、最近世)の部もあれば、又た目下「リース」によりて改訂せられつゝある十六卷の大部のものもあり、而して茲に紹介せんとする「ウエバー」世界史は上下兩卷合せて約二千頁より成り之れを時代の上より見る時は埃及及「バビロニア」の古代文化の狀態より最近の部は千九百十八年の秋に及び即ち二五)等の諸項によりて之れを知るを得可し、又卷末に索引を附せることは斯くの如き書籍の性質上讀者に便利を與ふること多かる可く、尙ほ本書の代價は上下兩卷を合して獨貨三十六麻なりとす。(阿部秀助)

附 錄

理財學會々報

十一月十四日午後一時半より大ホールに於て理財學會秋季大會を開催す。講演者左の如し

- 社會主義の解放 瀧本 誠一
 - 國家社會主義の理論的根據 高島 素之
 - 勞働者團結權に關する諸問題 堀江 歸一
 - 國家の外的條件 杉森 孝次郎
- 五時、右の講演終りてより萬來舎に於て晚餐會を開く。主客歡談裡に九時近くに散會したり。因に右の四氏の外參會者左の如し、二年幹事里見、三木、横田、金原、一年幹事岩片、小栗、三年幹事奥井、奥谷。

中歐諸國の防禦的地位、過激派の横行「モスコ」に於ける「ミルバハ」の暗殺、芬蘭の内亂「ウクライナ」の動搖、露國の解體等を以て其筆を斷てり、而して本書を概観して得たる二個の著しき點は改訂者が今ま尙ほ熱心なる「ランゲ」の崇拜者たる點にして、他は改訂者が曾つて十餘年を極東に送りし結果、自ら日本及支那方面の事情に通ずるの機會を得、從つて本書には此方面の史實にして世界史的意義を有するものは出來ずけ自己の注意より逸せざらんことを務めしことなりとす、例者、第二卷近世の部(頁二〇四—二一九)に平戸に於ける和蘭商館と英國商館との存在及活動、日本の統一、秀吉の征韓役、徳川家康の政治組織に及べるが如き之れが一例なり、更に此書が社會的方面に對しても注意を拂へることとは「虛無主義と社會民主黨」(頁九一—二一九—八)經濟的改革と社會的立法組織(頁九一—八—九